

ウォーミングアップ

1

	借 方		貸 方	
	記 号	金 額	記 号	金 額
(1)	()		()	
(2)	()		()	
(3)	()		()	
	()		()	

2

パーシャル・プランの場合

材 料	
前月繰越	40,400
当月購入	571,600
	<u>612,000</u>

加 工 費	
実際発生額	330,000
	<u>330,000</u>

仕 掛 品	
前月繰越 ()	製 品 ()
直接材料費 ()	次月繰越 ()
加 工 費 330,000	原価差異 ()
()	()
<u>()</u>	<u>()</u>

製 品	
前月繰越 ()	売上原価 ()
仕 掛 品 ()	次月繰越 ()
()	()
<u>()</u>	<u>()</u>

原 価 差 異	
() ()	

シングル・プランの場合

材 料	
前月繰越	40,400
当月購入	571,600
	() ()
	612,000
	612,000

加 工 費	
実際発生額 ()	仕掛品 ()
	() ()
()	()

仕 掛 品	
前月繰越 ()	製 品 ()
直接材料費 ()	次月繰越 ()
加 工 費 ()	
()	()

製 品	
前月繰越 ()	売上原価 ()
仕 掛 品 ()	次月繰越 ()
()	()

原 価 差 異	
() ()	
() ()	

3

(1) 標準原価カード

直接材料費	1,000	円/kg	×	10	kg/個	=	()	円/個
直接労務費	()	円/時間	×	()	時間/個	=	()	円/個
製造間接費	()	円/時間	×	()	時間/個	=	()	円/個
合計							()	円/個

(2) 直接材料費総差異 円 ()

直接労務費総差異 円 ()

製造間接費総差異 円 ()

() 内には、借方差異ならば借方、貸方差異ならば貸方と記入すること。

4

標準製造原価差異分析表

(単位：円)

直接材料費総差異		()
材料価格差異	()	
材料数量差異	()	
直接労務費総差異		()
賃率差異	()	
作業時間差異	()	
製造間接費総差異		()
予算差異	()	
能率差異	()	
操業度差異	()	
標準製造原価差異		()

5

- 問1 万円
- 問2 万円
- 問3 %
- 問4 万円
- 問5 万円

6全部原価計算による損益計算書

(単位：円)

売上高	()
売上原価	()
配賦差異	()
売上総利益	()
販売費	()
一般管理費	()
営業利益	()

直接原価計算による損益計算書

(単位：円)

売上高	()
変動売上原価	()
変動製造マージン	()
変動販売費	()
貢献利益	()
固定費	()
営業利益	()

7

(1) 全部原価計算による損益計算書

	第 1 期	第 2 期	第 3 期
売 上 高	()	()	()
売 上 原 価	()	()	()
売 上 総 利 益	()	()	()
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	()	()	()
営 業 利 益	()	()	()

(2) 直接原価計算による損益計算書

	第 1 期	第 2 期	第 3 期
売 上 高	()	()	()
変 動 費	()	()	()
貢 献 利 益	()	()	()
固 定 費	()	()	()
営 業 利 益	()	()	()

8

直接原価計算による損益計算書では、売上高から変動費を控除して、(①) を計算し、さらに固定費を控除して営業利益を計算する。第1期の①は (②) 円、営業利益は (③) 円である。一方、全部原価計算によると、第1期の売上総利益は (④) 円、営業利益は直接原価計算と同じである。

第2期の営業利益は、直接原価計算によると (⑤) 円、全部原価計算によると (⑥) 円である。この営業利益の差は、全部原価計算において期末棚卸資産に含まれる (⑦) の分である。

仮に、第2期の製品生産量を2,500個とすると、期末製品在庫量は (⑧) 個に増える。このときの営業利益は、直接原価計算によると (⑨) 円、全部原価計算によると (⑩) 円になる。

標準原価計算編

1

仕 掛 品		(単位：円)	
月初有高	()	製 品	()
直接材料費	()	月末有高	()
加工費	()	原価差異	()
	()		()

月次損益計算書		(単位：円)
I 売上高		()
II 売上原価		
月初製品有高	()	
当月製品製造原価	()	
合 計	()	
月末製品有高	()	
差 引	()	
原 価 差 異	()	()
売上総利益		()
III 販売費及び一般管理費		2,809,000
営業利益		()

2問1 円問2 円 (借方差異 ・ 貸方差異)問3 円 (借方差異 ・ 貸方差異)問4 円 (借方差異 ・ 貸方差異)問5 円 (借方差異 ・ 貸方差異)

(注) 問2～5は(借方差異・貸方差異)のいずれかを○で囲むこと。

3問1 固定製造間接費の標準配賦率 = 円/時間問2 当月の標準配賦額 = 円問3 製造間接費総差異 = 円 (有利・不利 差異)予 算 差 異 = 円 (有利・不利 差異)能 率 差 異 = 円 (有利・不利 差異)操 業 度 差 異 = 円 (有利・不利 差異)

(注) () 内の「有利」または「不利」を○で囲むこと。

4

問1

借方科目	金額	貸方科目	金額

問2

借方科目	金額	貸方科目	金額

問3 円 (有利差異 ・ 不利差異)

(有利差異・不利差異) のいずれかを○で囲むこと。

問4

予算差異	<input type="text"/> 円 (有利差異 ・ 不利差異)
能率差異	<input type="text"/> 円 (有利差異 ・ 不利差異)
操業度差異	<input type="text"/> 円 (有利差異 ・ 不利差異)

(有利差異・不利差異) のいずれかを○で囲むこと。

5

(1) 円／単位

(2) 円 ()

(3) 円 ()

(4) 円 ()

(5) 円 ()

(注) (2)~(5)の () 内には、借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方と記入すること。

6

問1

	借 方		貸 方	
	記 号	金 額	記 号	金 額
(1)	()		()	
(2)	()		()	
(3)	()		()	
	()		()	

問2

月次損益計算書

(単位：円)

I 売上高

()

II 売上原価

当月製品製造原価 ()

月末製品有高 ()

標準売上原価 ()

原価差異 () ()

売上総利益 ()

7

材 料

買掛金 ()	仕掛品 ()
	価格差異 ()
	数量差異 ()
	月末有高 ()
()	()
買掛金	
	材 料 ()

仕 掛 品

月初有高 ()	製 品 ()
材 料 ()	月末有高 ()
加工費 ()	
()	()
価格差異	
() ()	
数量差異	
() ()	

8

問1 _____ 円

問2 _____ 円

問3(1) 価格差異 _____ 円 (有利・不利)

数量差異 _____ 円 (有利・不利)

(2) 予算差異 _____ 円 (有利・不利)

能率差異 _____ 円 (有利・不利)

操業度差異 _____ 円 (有利・不利)

※有利か不利か、不要な方に二重線を付すこと。

9

問1 製品C, 製品K, 製品Jの原価標準を計算しなさい。

製 品	C	K	J
原 価 標 準	円	円	円

問2 直接材料費総差異および加工費総差異を計算しなさい。

直接材料費総差異	円 (借方, 貸方)
加工費総差異	円 (借方, 貸方)

(借方, 貸方) のいずれかを二重線で消すこと。

10

問1	円 () 差異
問2	予算差異 円 () 差異
	能率差異 円 () 差異
	操業度差異 円 () 差異
問3	【 】 差異が 【 】 円で一番小さい。
問4	【 】 差異が 【 】 円変化する。

(注) 問1・問2の () 内には、借方差異 (不利な差異) ならば借方, 貸方差異 (有利な差異) ならば貸方と記入すること。

直接原価計算編

1

問1		円
問2		円
問3		個
問4		個
問5		円

2

- (1) 当月の直接材料費総額 = 円
- (2) 当月の製造間接費総額 = 円
- (3) 当月の貢献利益 = 円
- (4) 当月の損益分岐点売上高 = 円
- (5) 当月の必要売上高 = 円

3

NGZ社は、(①)方式の損益計算書を採用している。①方式の損益計算書では、原価(製造原価、販売費及び一般管理費)を(②)と(③)とに分解し、売上高からまず②を差し引いて(④)を計算し、④から③を差し引いて営業利益を計算する。この方式の損益計算書を用いることで、短期利益計画に役立つ原価・営業量・利益の関係が明らかになる。

NGZ社の来月の貢献利益率は(⑤)%、損益分岐点販売量は(⑥)台である。損益分岐点の営業量と予定または実際の営業量との差を安全余裕度というが、NGZ社の来月の安全余裕度は販売量でいえば(⑦)台である。

NGZ社の来月の売上高営業利益率は(⑧)%であるが、売上高営業利益率26%を達成したい場合の売上高は(⑨)億円であり、そのときの④は(⑩)億円である。

4

問1 最小の売上高 円

問2 単位当たり変動費 円/単位

月間固定費 円

問3 月間損益分岐点売上高 円

問4 月間目標売上高 円

5問1 %問2 円問3 円問4 円問5 %**6**

①		②	
③		④	
⑤			

7

問1

直接原価計算による損益計算書 (単位：円)

売上高	()
変動売上原価	()
変動製造マージン	()
変動販売費	()
貢献利益	()
製造固定費	()
固定販売費及び一般管理費	()
営業利益	()

問2 当期の損益分岐点の売上高 = 円問3 次期に営業利益を2倍にする売上高 = 円

8

問1

直接原価計算による損益計算書 (単位：円)

売上高	()
変動売上原価	()
変動製造マージン	()
変動販売費	()
貢献利益	()
製造固定費	()
固定販売費及び一般管理費	()
営業利益	()

問2 当期の損益分岐点の売上高 = 円問3 営業利益210,000円を達成するための販売数量 = 個

		直接原価計算による損益計算書		(単位：円)
		前々期	前期	
売	上	高	()	()
変	動	費	()	()
			()	()
貢	献	利	()	()
固	定	費	()	()
			()	()
営	業	利	()	()
			()	()

10

問1 第1期から第4期における全部原価計算の営業利益と直接原価計算の営業利益を記入しなさい。

	第1期	第2期	第3期	第4期
全部原価計算の営業利益				
直接原価計算の営業利益				

問2 第2期末における貸借対照表の製品有高は、全部原価計算の場合と直接原価計算の場合とでは、どちらがどれだけ多いか。なお、()内の正しい方の語句を○で囲んだうえで、金額を記入しなさい。

第2期末における貸借対照表の製品有高は、(全部原価計算・直接原価計算) の場合の方が、

円だけ多い。

問3 製造原価に含まれる固定費に関する文章の()内の正しい方の語句を○で囲みなさい。

(直接原価計算・全部原価計算) では、製造原価に含まれる固定費は在庫に配賦されず、すべて当期の費用として処理されるが、(直接原価計算・全部原価計算) の場合、製造原価に含まれる固定費が製品や仕掛品の在庫に配賦され次期に繰り越されることで、問2のように貸借対照表の製品有高や問1の第2期から第4期の営業利益に影響を与える。たとえば、問1の第3期において、直接原価計算の営業利益に、第2期から繰り越された製品の在庫に配賦された製造原価に含まれる固定費を(加算・減算) し、第4期に繰り越す製品の在庫に配賦された製造原価に含まれる固定費を(加算・減算) する調整を行うことで、全部原価計算の営業利益を求めることができる。

仕 掛 品

期首有高	877,500	当期完成高	()
直接材料費	()	期末有高	()
直接労務費	()		
変動製造間接費	()		
	()		()

直接原価計算による損益計算書

(単位：円)

I 売 上 高		15,105,000
II 変動売上原価		
1. 期首製品棚卸高	1,065,000	
2. 当期製品変動製造原価	()	
合 計	()	
3. 期末製品棚卸高	()	
差 引	()	
4. 原 価 差 異	()	()
変動製造マージン		()
III 変動販売費		()
貢 献 利 益		()
IV 固 定 費		
1. 製 造 間 接 費	()	
2. 固定販売費及び一般管理費	()	()
営 業 利 益		()

問 1

損益計算書		(単位：円)
売上高	()
変動費		
月初製品有高	()
当月製品変動製造原価	()
合 計	()
月末製品有高	()
変動売上原価	()
変動販売費	()
貢献利益	()
固定費	()
営業利益	()

問 2		円
問 3		%
問 4		%